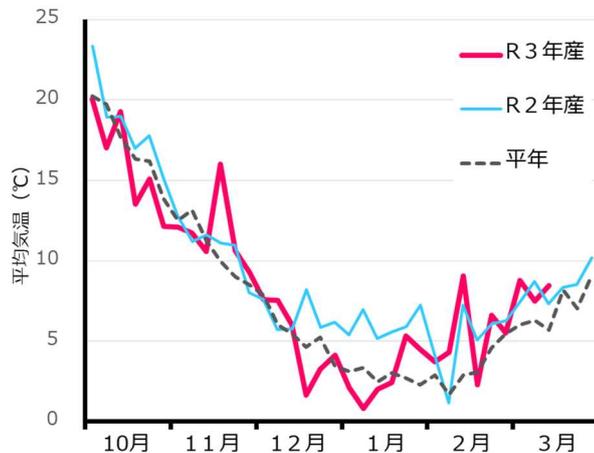


## 適期の防除と実肥施用で品質・収量確保!

### 1. 気象および麦の生育状況

1月中旬までの低温や積雪により、2月初めまでは平年並の生育でしたが、その後の気温が高く推移しているため、**出穂期は平年より早まる**ことが見込まれます。適期防除と必要に応じた実肥を施用しましょう。



### 2. 品質・収量確保に向けた管理

#### (1) 赤かび病防除

大麦は小麦より赤かび病に弱いため、**必ず2回防除を行いましょ**う。**1回目は開花始め、2回目は1回目の1週間後**です。気温の経過により、出穂期～穂揃期～開花期までの日数が長くなる場合があります。開花期の見極めは難しいので、以下の目安を参考に防除の準備を進めましょ

#### 【防除適期の目安】

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花始め)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
10月中～下旬	4月7日前後	4月12～17日	4月19～24日
11月上旬～	4月12日前後	4月17～21日	4月24～29日

※今後の気象状況によって、出穂時期は前後することがあります

#### (2) 実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。特に、**麦茶用には高タンパクの大麦が求められます**。今年は、ほ場により莖数、葉色に差があります。下の目安を参考に**出穂10日後**に実肥を施用ましょ

#### 【実肥量(窒素成分)の目安】

分施肥系または <b>実肥成分を含まない一発肥料</b> の場合	4kg/10a
<b>実肥成分を含む一発肥料(大麦専用 MFS 等)</b> の場合 莖数が多いところ、葉色が薄いところは、窒素成分で2kg/10aを施用する	1～2kg/10a